

株主の皆様へ

第45期 報告書

平成20年4月1日～平成21年3月31日



立山・劔と立山カルデラ（空撮）

立山黒部貫光株式会社

株主の皆さまへ



代表取締役社長 中村 憲史

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、日頃より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成20年度のわが国経済は、原油、原材料価格の高騰や、サブプライムローン問題に端を発した金融不安が高まる中、弱含みで推移してまいりましたが、秋以降、米国発の金融破綻をきっかけに百年に一度といわれる経済危機が深刻化し、底の見えない景気の低迷が続きました。

当社を取り巻く観光業界では、7月に東海北陸自動車道が全線開通し、広域圏内での交通の利便性が一層向上した一方、燃料費の高騰や景気後退に伴う個人消費の冷え込み、円高など経済環境の目まぐるしい変化と、多様化・高度化する旅客ニーズや、激化する価格競争、地域間競争の中で、事業環境はなお一層厳しい状況となりました。

こうした中、20年度の立山黒部アルペンルートの入り込み状況は、「雪の大谷ウォーク」による旅客増を核として前半は順調に推移いたしました。8月以降、天候不順や、急激な景気の後退により前年を下回ることとなりました。この結果、年間の入り込み合計では1,016千人となり、お陰様で当期の第一の目標に掲げておりました入り込み人員100万人の回復は、何とか達成することができました。

しかしながら、その内容を見ますと、国内旅客の減少傾向には歯止めがかかったとは言えず、また前年に引き続き高い伸びを示した海外からのお客様につきましても、秋以降、円高や景気の低迷により前年を下回り、決して楽観できる状況ではありません。

これらを踏まえ、21年度の営業におきましては、特に国内旅客の回復を重点課題に掲げ、積極的なセールス活動と、多様なPR活動を展開して大都市圏を中心とした誘客を推進するとともに、各種企画、イベントの充実等により、リピーターの増加に力を注いでまいりました。21年度に入り、これまでのところ、これらの誘客活動に加え、テレビドラマ「黒部の太陽」、映画「劔岳 点の記」、高速道路千円化、善光寺ご開帳などが相まって、国内旅客が前年に比べ増加しており、最盛期に向け、誘客促進の取り組みを一層強化してまいります。

また、海外からの旅客につきましても、21年度に入り、予想された経済危機、円高による影響に、新型インフルエンザによる混乱が加わり、現在のところ前年に比べ大幅な減少となっておりますが、アルペンルートそのものの集客力は依然衰えておらず、また東アジアを

中心に潜在的な市場はいまだ有望であるとみており、旅客動向の推移を慎重に見極めつつ、引き続き関係団体と連携したPR活動を継続して、旅客の確保に取り組んでまいります。

これにより、平成21年度におきましても、入り込み人員100万人の維持を最重要課題とし、あわせて、収益性の向上と、経営効率の改善に努める所存です。

なお、去る平成21年4月25日に発生した立山高原バス脱輪事故におきましては、乗っておられた方々にお怪我を負わせると共に、乗客の皆様全員にご苦痛とご迷惑をおかけすることとなりました。また、関係機関ならびに関係各位にも多大のご迷惑とご心配をおかけいたしました。関係者ならびに株主の皆様に対し、重ねて、深くお詫び申し上げる次第であります。この度のような事故を二度と起こさないために、事故直後から、安全管理の徹底と、安全教育の再構築に取り組んでおり、今後とも信頼の回復に更に全力を注いでまいります。

宇奈月国際ホテルにつきましては、経済情勢、経営環境を踏まえ、子会社である立山貴光ターミナル株式会社へ経営委託して、ホテルを一元経営することといたしました。これにより、運輸事業は当社が、ホテル事業は立山貴光ターミナルが担当して、それぞれの事業に専念する体制のもと、効率的運営と販売力の強化をはかってまいります。

これからも、故佐伯宗義初代社長の創業の理念を受け継ぎ、世界に誇る国際山岳観光地「立山黒部アルペンルート」ブランドの確立に全力を傾注するとともに、株主の皆様のご期待にこたえるべく、企業価値の向上に努めてまいります。

また、創業以来一貫して掲げております「安全確保」と「大自然の環境保全」という命題につきましても、更なる改良改善に努め、安全快適で環境に優しいアルペンルートを構築して、地域の振興に寄与してまいりたいと考えております。

今後とも、株主の皆様には、より一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願いを申し上げます。

アルペンルート クローズアップ

立山研修会館

立山開発の歴史に学び、創業者佐伯宗義の独自の哲学と理念を継承し、立山黒部アルペンルート建設の歴史的意義を後世に伝える目的で、平成13年に開設された社内研修施設。

戦後まもなく建造された木造2階建ての建物は、かつて「観光会館」と称され、佐伯宗義事務所、観光連盟事務所、立山開発鉄道(株)本社、地鉄関連企画室など多目的に利用されてきました。年月と共に大半が解体されてしまいましたが、由緒あるこの建物の一部を、当時の面影を残しつつ改築を施し、「立山研修会館」として整備しました。

現在は、主として社員の研修施設として利用されていますが、その一部を資料室とし、アルペンルート開業前の写真や、アルペンルート建設に関する資料をはじめ、佐伯宗義の直筆の書簡、事務机などを展示公開しています。

立山研修会館

住所：富山市新桜町9番9号



玄関



立山資料室

平成20年度事業概況

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

当期の立山黒部アルペンルートは、前年同様、4月10日に、富山側は立山～弥陀ヶ原間、大町側は信濃大町～室堂間が営業を再開し、4月17日には、立山～信濃大町間が全線営業再開となり、11月30日まで営業いたしました。当期の営業の経過は、前年の能登半島地震の影響を払拭するための国内外での積極的な誘客活動と、「雪の大谷ウォーク」のゴールデンウィーク中の開催や散策コースの変更、好天が相まって、4～7月は順調に推移いたしました。8月はゲリラ雷雨などの天候不順により入り込み人員が前年を割り込み、また9月中旬には米国のリーマン・ブラザーズの破綻をきっかけに、景気が一気に後退し、9、10、11月はともに前年を下回ることとなりました。

この結果、当期の入り込み人員は富山側529千人（対前年109%）、大町側486千人（対前年104%）、合計1,016千人（対前年106%、61千人増）となり、お陰様で当期の第一目標に掲げておりました入り込み人員100万人の回復をなんとか達成することができました。

これを旅客の内訳で見ますと、国内のお客様は、888千人（対前年106%）と昨年から持ち直したものの依然減少傾向に歯止めがかかったとは言えない状況にあります。一方、東アジアを中心とした海外のお客様は、国の「ビジット・ジャパン・キャンペーン」や富山県の招聘事業と連携したPR活動が功を奏し、「雪の大谷ウォーク」開催期間の台湾からの「富山チャーター便」や定期便が好調に推移したこともあり、128千人（対前年111%）と本年も順調な伸びを示しました。しかし海外からのお客様は、9月以降、金融危機による急激な円高、株安の影響等もあり減速し、いずれの月も前年割れの水準で推移いたしました。

以上により当社区間（立山～黒部湖間）の輸送人員は、鋼索鉄道線（立山ケーブルカー）798千人（対前年113%）、自動車線866千人（対前年110%）、無軌条電車線770千人（対前年107%）、普通索道線798千人（対前年105%）、鋼索鉄道線（黒部ケーブルカー）814千人（対前年105%）となりました。

この結果、当期の運輸収益は、鋼索鉄道事業9億79百万円（対前年108%）、自動車事業11億37百万円（対前年109%）、無軌条電車事業12億51百万円（対前年107%）普通索道事業7億78百万円（対前年105%）、これに構内販売その他事業収益9億30百万円（対前年102%）を加えた収益合計は50億74百万円（対前年106%）となりました。

宇奈月国際ホテルにつきましては、上半期はほぼ前年並みに推移したものの、秋以降、景気後退の影響により、大手旅行者経由の募集型個人客の減少が顕著となり、冬期に入っても、団体、個人を問わず地元を中心とした集客が低迷するなど前年を下回る水準で推移いたしました。その結果、当期の宿泊人員は29,290人（対前年100%）、営業収益は6億16百万円（対前年95%）となった次第であります。

以上全事業の営業収益は56億90百万円（対前年105%）となり、営業外収益51百万円を加えた総収益は57億41百万円（対前年105%）となりました。

次に営業費につきましては、人件費、物件費の圧縮など経営全般にわたる効率化に努めました結果、営業費合計は52億49百万円（対前年98%）となり、これに営業外費用62百万円を加えた費用合計は53億11百万円（対前年98%）となりました。

以上により、当期の経常利益は4億30百万円となり、これに特別損失83百万円、また法人税ならびに税効果会計による法人税等調整額を加減して、当期純利益は1億69百万円を計上することとなりました。

運輸営業成績表（平成20年度）

項目		鋼索鉄道線 (立山ケーブルカー)	前年比 %	自動車線 (立山高原バス等)	前年比 %	無軌条電車線 (立山トンネルトローパス)	前年比 %
営業キロ程	キロ	1.3	100	82.5	100	3.7	100
営業日数	日	235	104	342	100	235	100
旅客輸送人員	人	797,746	113	866,457	110	769,816	107
旅客運輸収入	千円	448,518	112	1,131,216	109	1,248,763	107
運輸雑収	千円	2,725	96	5,332	97	1,862	68
収益計	千円	451,244	112	1,136,548	109	1,250,625	107
車両走行キロ	キロ	29,177	111	724,637	107	111,473	102

項目		普通索道線 (立山ロープウェイ)	前年比 %	鋼索鉄道線 (黒部ケーブルカー)	前年比 %
営業キロ程	キロ	1.7	100	0.8	100
営業日数	日	235	100	235	100
旅客輸送人員	人	798,283	105	813,773	105
旅客運輸収入	千円	776,075	105	526,924	105
運輸雑収	千円	1,529	75	1,050	74
収益計	千円	777,606	105	527,974	105
車両走行キロ	キロ	41,854	104	15,554	98

構内販売その他営業成績表（平成20年度）

項目	構内営業	前年比 %	買貨収入	前年比 %	
営業収益	千円	860,177	103	70,000	100

ホテル営業成績表（平成20年度）

項目	宇奈月国際ホテル	前年比 %	
営業日数	日	365	100
宿泊人員	人	29,290	100
一日平均宿泊人員	人	80	100
営業収益	千円	615,740	95
基本利用	千円	483,898	95
追加飲食	千円	37,307	91
施設利用	千円	29,287	90
売店	千円	59,166	102
その他	千円	6,080	78
一日平均営業収益	千円	1,686	95

財産および損益の推移

区分	第42期 (平成17年度)	第43期 (平成18年度)	第44期 (平成19年度)	第45期(当期) (平成20年度)	
営業収益	千円	4,469,569	5,969,102	5,417,146	5,689,916
当期純利益(損失)	千円	△449,140	125,166	18,381	168,714
1株当たり当期純利益(損失)		△51円2銭	13円48銭	1円99銭	18円66銭
総資産	千円	14,294,496	13,964,387	12,572,530	11,951,386

(注) 第42期(平成17年度)につきましては、平成17年10月1日に立山開発鉄道線と合併いたしましたので、上期業績(合併前)と下期業績(合併後)を合計したものを記載しております。

平成21年度の取り組み

1 国内旅客の回復

平成20年度の国内旅客は前年比4万8千人増の88万8千人と、19年度において前年より減少した9万1千人の約半数を回復したにとどまり、近年顕著な国内旅客の減少傾向に歯止めがかかったとは言いきれない状況です。

本年は、世界的な経済の混乱による為替相場の不安定により、海外からの誘客に懸念材料を抱えていることもあり、入り込み人員100万人台の安定的な確保には、この国内旅客の確保が最も重要であると考えております。

21年度営業再開前のPR・営業活動では、先行き不透明な経済情勢等を踏まえ、全線開通直後の4月17日から5月31日まで開催される「立山・雪の大谷ウォーク」による誘客促進を中心に、シーズン前半は「雪の壁」に重点を置いた誘客活動を展開してまいりました。

特に、入り込み全体の中で重要な比重を占める募集型ツアーによるお客様を増やすことが国内旅客確保の鍵になると見て、年明け以降、首都圏、関西圏、東海圏など大都市圏からの誘客促進を軸に、大手旅行代理店や鉄道、バス、航空の各社に対し、当ルートを組み込んだ魅力的な旅行商品の造成を働きかけるなど、積極的な営業活動を行いました。

また、富山県、富山県観光連盟、立山黒部観光宣伝協議会等との連携による大型PR事業として、東京山手線での車体ラッピング広告、京都線・神戸線での車内映像広告、名古屋駅構内での柱シート広告の実施等を行うとともに、当社独自でも山手線など大都市の路線に車内広告を行うなど、大都市圏での露出度、認知度を高める宣伝活動を実施してまいりました。

特に本年は、テレビドラマ「黒部の太陽」の放映、映画「劔岳 点の記」の公開があり、上述のPR事業を含め、これらと連携、タイアップした宣伝活動を企画、展開いたしました。

また、個人・地元のお客様に対しましては、夏の立山登拝、市町村デー、立山黒部アルペンルートウォーキングを、本年より夏休み期間中に実施することとしたほか、昨年に引き続き、新ファミリー切符等の得々きっぷ、立山アルペン倶楽部、定期観光バス「たちやま」の運行を実施いたします。また、立山博物館、立山カルデラ砂防博物館、自然保護センターと連携した企画、イベントを実施することとしております。

国内人口の減少、少子高齢化の中にあって国内旅客の確保をはかるには、顧客満足度を高め、何度でも訪れたいくなる観光地として、いわゆるリピーターの増加をはかることが不可欠であります。そのためには、体験型観光地としての更なる魅力づけが課題であると捉えており、「雪の大谷ウォーク」をはじめ、立山アルペン倶楽部、定期観光バス「たちやま」ほか、上述の種々の企画、イベントの充実をはかるとともに、新たな視点から、旅客ニーズを捉え、立山黒部の観光資源を活用する商品づくりを進めてまいります。

また、国内外に対応したホームページのリニューアル等を通じ、WEBを活用した情報発信力の強化をはかってまいります。

2 海外客の誘致

海外からのお客様につきましては、東アジア、特に台湾を中心に韓国、中国（香港）、タイ等からの入り込みが一応の成果を示し、平成20年度には、128千人と、入り込み人員全体の10%を超えてまいりました。

21年度も引き続き台湾から富山空港へのチャーター便が設定されるなど、「雪の大谷」を中心とした立山黒部アルペンルートの人気は依然として高く、営業再開前から各国での積極的な誘客宣伝活動を展開してまいりました。

本年も国の観光立国行動計画に沿った「ビジット・ジャパン・キャンペーン」(VJC) 事業および富山県の海外客招聘事業との連携によるプロモーション活動を、台湾を核として韓国、香港等で実施するほか、各国の実情に応じたセールス活動の強化に加え、中国本土、東南アジアに営業活動を

広げてまいります。

しかしながら本年は、世界的な景気後退や、円高による訪日観光への影響が懸念されることから、海外からのお客様については迅速な情報収集と動向の把握に努め、機動的な対応に留意してまいります。

3 安全の確保

平成21年4月25日に立山高原道路、通称「七曲がり」地点で発生いたしました立山高原バス脱輪事故におきましては、けがをされた方々をはじめ、乗客の皆様全員に多大の苦痛とご迷惑をおかけするとともに、関係機関ならびに関係各位にご迷惑とご心配をおかけすることとなりました。

また、株主の皆様をはじめ関係の皆様には、この度の事故に関し、ご心配をおかけすることとなり、深くお詫び申し上げます。この度の事故は、当社にとりまして創業以来初めての重大な人身事故であり、二度と起こしてはならない事として重く受け止めております。

この事故を受け、当社では全職場において、安全管理の総点検を実施いたしました。また、点呼の厳正な実施をはじめ日常の安全管理を再徹底いたしました。更に今後、事故原因の詳細な究明とあわせ、安全教育の再構築など、再発防止のための施策を実施してまいります。

また、平成20年8月14日には、立山ロープウェイが落雷に伴う保安回路作動により運休し、お客様に大変なご迷惑をおかけいたしました。当日は、富山側、大町側へそれぞれバスを仕立て、お客様の振替輸送を行いました。関係各社のご協力を得て、幸いお客様にけがもなく無事お送りできましたことに、感謝いたしております。今後、アルペンルート関係各社とお客様のための更なる連携体制の構築に努めてまいります。

運輸事業等を営む当社にとりまして、安全の確保は当然の責務であります。これらの事故、トラブルを踏まえ、「安全が第一」との原点に立ち帰り、日常の安全管理を徹底して行い、安心・安全なアルペンルートの再構築をはかるため、役職員一丸となって努力してまいります。

4 早春の営業再開と自然環境保全

21年度の営業再開は、関係機関のご協力ご配慮を得て、昨年に引き続き、4月10日に大町側は信濃大町から室堂まで、富山側は立山から弥陀ヶ原までの部分開通、4月17日に全線で営業を再開いたしました。開業にあたっては、昨年同様、厳冬期の立山一帯における旅客の安全と環境保全ならびに自然保護に対する理解の周知徹底を行い万全を期してまいりました。

また、今後とも立山トンネルトロリーバスを始めとする環境にやさしい輸送手段の維持更新、ごみ処理対策の徹底、緑化推進・美化清掃活動の推進などを行ってゆくほか、外来植物の繁殖等への対策として、21年度営業再開時より、アルペンルート主要駅に「足拭きマット」を設置するなど、引き続き、立山の大自然を守り伝えるための努力を続けてまいります。

これからも自然公園法の目的に添い、「自然にふれあい、自然のすばらしさを知ってもらえるよう」観光と環境保全の調和を図り、関係機関と連携して立山黒部の大自然を広く紹介してまいりたいと存じます。

5 宇奈月国際ホテルの経営委託

宇奈月国際ホテルにつきましては、個人消費の低迷や旅行形態の変化等の影響を受け、営業環境は年々厳しさを増す中、積極的な誘客活動と効率的運用による経費の節減に努めてまいりました。

この度、経営環境を踏まえた一段の改善策導入の必要性に鑑み、宇奈月国際ホテルの経営を、平成21年4月1日をもって、当社の子会社で、ホテル立山および弥陀ヶ原ホテルを経営する立山貫光ターミナル株式会社へ委託して、ホテルを一元経営することいたしました。

これにより、運輸事業は当社が、ホテル事業は立山貫光ターミナルが担当することとし、それぞれの担当事業に専念する体制となります。当社では、引き続きホテルの主要設備を保有し、その維持管理は当社が行ってまいります。また受託する立山貫光ターミナルでは、ホテル3館の経営一元化により、運営コストの圧縮と、販売力の強化により、グループとしてホテル事業収支の改善を図ってまいります。

単体財務諸表

貸借対照表の要旨

(平成21年3月31日現在)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	688	流動負債	1,215
現金及び預金	473	支払手形	72
未収運賃	1	買掛金	16
売掛金	8	短期借入金	667
未収金	5	未払金	111
商品	13	未払費用	22
飲食用材料品	8	未払消費税等	44
貯蔵品	80	未払法人税等	151
前払金	21	預り金	6
繰延税金資産	67	賞与引当金	122
その他の流動資産	5	固定負債	2,650
固定資産	11,264	長期借入金	1,735
鋼索・索道・無軌条電車事業固定資産	3,218	退職給付引当金	844
自動車事業固定資産	290	役員退職慰労引当金	69
付帯事業固定資産	2,655		
各事業関連固定資産	2,288	負債合計	3,866
その他の固定資産	49	(純資産の部)	
投資その他の資産	2,762	株主資本	7,343
関係会社株式	2,066	資本金	4,160
投資有価証券	92	利益剰余金	3,508
出資金	1	利益準備金	444
長期貸付金	15	その他利益剰余金	3,064
関係会社長期貸付金	107	自己株式	△325
繰延税金資産	31	評価・換算差額等	741
その他の投資等	447	その他有価証券評価差額金	741
資産合計	11,951	純資産合計	8,085
		負債・純資産合計	11,951

損益計算書の要旨

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

科目	金額
鋼索・索道・無軌条電車事業	
営業収益	3,007
営業収益	2,391
営業利益	616
自動車事業	
営業収益	1,136
営業収益	1,094
営業利益	41
付帯事業	
営業収益	1,545
営業収益	1,763
営業損失	217
全事業営業利益	440
営業外収益	51
営業外費用	61
経常利益	429
特別損失	83
税引前当期純利益	346
法人税、住民税及び事業税	160
法人税等調整額	17
当期純利益	168

※「付帯事業」には「構内販売その他事業」、「ホテル事業」が含まれております。
 ※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

株主資本等変動計算書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本						評価差額	純資産合計		
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式			株主資本合計	
		その他資本剰余金	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計					
前期末残高	4,160		432	2,800	220	3,453	△178	7,435	763	8,198
当期変動額										
剰余金の配当			11		△125	△113		△113		△113
当期純利益					168	168		168		168
自己株式の取得							△149	△149		△149
自己株式の処分							2	2		2
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)										
当期変動額合計	-	-	11	-	43	54	△147	△92	△21	△113
当期末残高	4,160		444	2,800	264	3,508	△325	7,343	741	8,085

連結財務諸表

連結貸借対照表の要旨

(平成21年3月31日現在)

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	1,189	流動負債	1,374
現金及び預金	867	支払手形及び買掛金	132
売掛金	11	短期借入金	708
たな卸資産	151	未払消費税等	55
繰延税金資産	86	未払法人税等	157
その他	72	賞与引当金	162
固定資産	12,044	その他	158
有形固定資産	9,686	固定負債	3,135
建物及び構築物	5,944	長期借入金	1,778
機械装置及び運搬具	819	退職給付引当金	1,164
土地	2,697	役員退職慰労引当金	79
その他	224	負ののれん	112
無形固定資産	62	負債合計	4,510
ソフトウェア	28	(純資産の部)	
その他	34	株主資本	7,550
投資その他の資産	2,295	資本金	4,160
投資有価証券	1,568	利益剰余金	3,711
長期貸付金	122	自己株式	△322
繰延税金資産	188	評価・換算差額等	755
その他	416	その他有価証券評価差額金	755
		少数株主持分	417
		純資産合計	8,723
資産合計	13,233	負債・純資産合計	13,233

連結損益計算書の要旨

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位:百万円)

科目	金額
営業収益	7,795
営業費用	7,307
運搬等営業費及び売上原価	4,079
販売費及び一般管理費	3,227
営業利益	487
営業外収益	60
営業外費用	65
経常利益	482
特別損失	85
税金等調整前当期純利益	397
法人税、住民税及び事業税	170
法人税等調整額	11
少数株主利益	2
当期純利益	211

※連結決算の対象会社は、子会社の立山賣光ターミナル(株)、立山黒部サービス(株)です。
※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

連結株主資本等変動計算書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
前連結会計年度末残高	4,160		3,611	△282	7,490	830	353	8,673
連結会計年度の変動額								
剰余金の配当			△112		△112			△112
当期純利益			211		211			211
自己株式の取得				△42	△42			△42
自己株式の処分				2	2			2
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△74	64	△10
当連結会計年度変動額合計	-	-	99	△40	59	△74	64	49
当連結会計年度末残高	4,160		3,711	△322	7,550	755	417	8,723

会社概要／役員

(平成21年3月31日現在)

- 設立年月日 昭和39年12月25日
- 資本金 41億6千万円
- 発行済株式総数 9,291,668株
- 株主数 1,438名
- 役員

代表取締役社長	中村 憲史
専務取締役 総務部長	間坂 通夫
取締役	石井 隆一
取締役	山田 圭藏
取締役	高木 繁雄
取締役	中森 朝明
取締役	桑名 博勝
取締役	森 雅志
取締役	牛越 徹
取締役	佐伯 元子
取締役	松田 昭博
取締役	高田 一仁
取締役 運輸業務部長	佐伯 博
取締役 ホテル業務部長 兼物品販売部長	村井 宏光
取締役 経営監査室長	堀内 和夫
取締役 経営企画室長	佐川 栄
取締役 経理部長	松岡 彰
常勤監査役	植出 耕一
監査役	舟橋 貴之
監査役	金井 昌一
監査役	

株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 6月
- 基準日 株主優待券 2月末日
定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当金 3月31日
- 公告掲載新聞 北日本新聞
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号
日本証券代行株式会社
- お問い合わせ・送付先 〒137-8650
東京都江東区塩浜二丁目8番18号
日本証券代行株式会社 代理人部
0120-707-843 (フリーダイヤル)

単元未満株式買取・買増制度のご案内

当社では、単元未満株式（100株未満）をご所有の株主の皆様のご便宜を図るため、単元未満株式の買取および買増制度を行っております。

<単元未満株式の買取り>

株主様がご持ちになっている単元未満株式を、当社が買い取らせていただきます。

<単元未満株式の買増し>

株主様がご持ちになっている単元未満株式と合わせて1単元（100株）となる株式を当社が株主様に売却いたします。

お手続きの詳細につきましては、上記日本証券代行 代理人部までお問い合わせください。

旧「立山開発鉄道株式会社」株券をお持ちの株主様

当社では、合併により消滅した立山開発鉄道株式会社の株券と、当社株券との引換えを行っております。まだ引換えのお済みでない株主様は、新株券との引換えをお願い申し上げます。

なお、引換えのお手続きにつきましては、上記日本証券代行 代理人部までお問い合わせください。

株主優待基準

ご所有株式数	優待乗車券・乗車証			ホテル宿泊割引券
	種 類	適用区間	発行枚数	
100株～150株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂	2枚	2枚
150株～300株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂	3枚	2枚
300株～400株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂	1枚	2枚
	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	2枚	
400株～600株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	4枚	2枚
600株～800株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	6枚	2枚
800株～1,000株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	8枚	2枚
1,000株～2,000株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	10枚	4枚
2,000株～3,000株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	20枚	4枚
	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	30枚	
3,000株以上	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	30枚	6枚
	優待乗車証(記名式)	立山～黒部湖	1枚	

- 優待有効期間 各年度 営業期間中
- 各券のご利用方法につきましては、各券面記載事項をご覧ください。

お得な往復きっぷ発売中!

【新ファミリーきっぷ】

大人2人と子ども(小学生)1名または2名で、同伴される子ども運賃相当が割引になります。(立山駅・室堂駅・黒部湖駅にて発売)

【大観峰得々きっぷ】

室堂から一歩先へ。トロリーバスに乗って黒部湖や後立山連峰を見に行こう。(立山駅にて発売/大人6,000円/子ども3,000円)

【美女平再発見きっぷ】

森林浴やバードウォッチング、気軽に森の空気を吸いに行きませんか?(立山駅にて発売/大人1,000円/子ども510円)

定期観光バス「たちやま」運行

標高977mの美女平から2450mの室堂間をゆっくり、のんびり、解説員による案内を楽しみながら立山の自然を味わえるバスツアーです。

●参加費3,000円(昼食付。乗車券が別途必要です)

10:20~10:45受付

11:00立山ケーブルカー乗車~14:30室堂着(解散)

【高原号】7/1~10/25(運行日をご確認ください)
弥陀ヶ原を散策。新緑、花、紅葉と季節毎に楽しみはいろいろ。

お問い合わせ



立山黒部貫光株式会社営業推進部

電話 076(432)2819

www.alpen-route.com

運行状況・天気などは携帯サイトでチェック!

立山アルペン倶楽部 会員募集

立山黒部アルペンルートでは、立山が大好きなお客様を対象に「立山アルペン倶楽部」の会員を募集いたします。会員の皆様には数々の特典をご用意いたしました。

◆特典1

立山駅~黒部湖駅間の来山回数に応じて同区間の運賃割引を行います。

1回	2回	3回	4回	5回以降
10%	20%	30%	40%	50%

所定の運賃から左記の割引率にてご購入いただけます。
取扱駅は立山駅・美女平駅・弥陀ヶ原駅・室堂駅・黒部平駅・黒部湖駅に限ります。
乗車券購入時に会員証をご提示ください。
※他割引との併用はできません。

地鉄電車ご利用の方は同様の割引率にて運賃が割引になります。

購入区間は地鉄各駅~美女平駅・室堂駅・黒部湖駅の往復に限らせていただきます。(特急券には適応いたしません。)乗車券購入時に会員証をご提示ください。

アルペンルート内の施設を割引料金で利用できます。

割引料金の適用を受けるには会員証の提示が必要です。
※他割引との併用はできません。

◆特典2 宿泊割引 ※宿泊は施設へ直接のご予約に限ります。

定価より10%割引

ホテル立山・弥陀ヶ原ホテル、立山高原ホテル

定価より5%割引

一の越山荘・内蔵助山荘・剣山荘・大日小屋・立山天狗平山荘・立山室堂山荘・剣御前小屋・剣沢小屋・みくりが池温泉・雷鳥沢ヒュッテ・雷鳥荘・ロジックろよん・ロジック立山連峰

◆特典3 レストラン割引

10%割引

レストラン立山・弥陀ヶ原ホテル、レストラン黒部平・レストランアルペン

◆特典4 売店割引 ※一部除外品

5%割引

室堂ターミナル売店、弥陀ヶ原ホテル売店、大観峰駅売店、黒部平駅売店、美女平駅売店、立山駅売店

◆特典5

電子メールによるイベント・高山植物・紅葉など情報提供を行います。

◆特典6

冬季に開催する立山の歴史・文化・環境をテーマとした講習会へご参加いただけます。

◆特典7

当社イベントへスタッフとしてご参加いただけます。

さらに

次年度以降「モニター」に応募できます。

年会費 1,000円

詳しくは、下記までお問い合わせください。

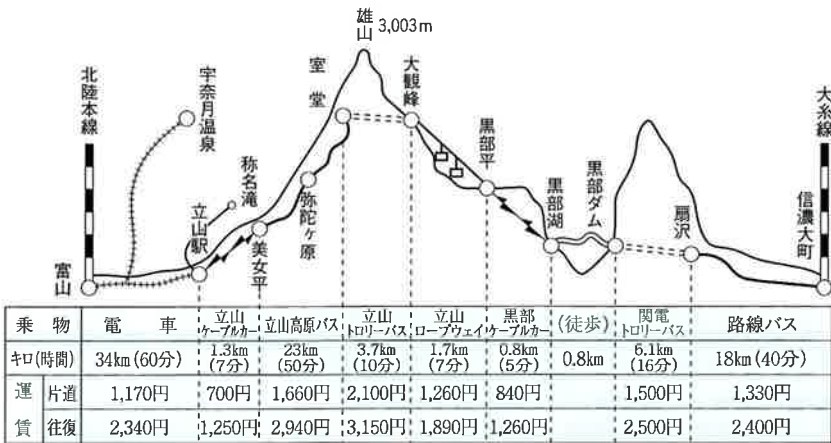
「立山アルペン倶楽部」事務局

☎076-441-3000

営業時間 月~金:8:30~17:30



立山黒部アルペンルートのご案内



営業推進部

〒930-0849 富山県富山市稲荷園町2-34
営業企画センター・販売予約センター・海外営業センター・宣伝センター
☎(076)432-2819 FAX(076)442-3431

立山黒部東日本営業所

〒102-0081 東京都千代田区四番町4-9 東越伯鷹ビル1階
☎(03)3262-7028 FAX(03)3265-5285

立山黒部東海営業所

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル10階
☎(052)241-2268 FAX(052)241-2275

●ホームページアドレス

<http://www.alpen-route.com>

立山黒部西日本営業所

〒550-0004 大阪府大阪市西区朝本町1-9-15 近畿富山会館4階
☎(06)6445-0359 FAX(06)6445-0398

立山黒部大町営業所

〒398-0002 長野県大町市五日町3226-2
☎(0261)22-0198 FAX(0261)23-2967

グループのホテル

宇奈月国際ホテル

〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉7-26
☎(0765)62-1236 FAX(0765)62-1808

ホテル立山

〒930-1414 富山県中新川郡立山町戸崎寺堂
☎(076)465-3333 FAX(076)465-3336

弥陀ヶ原ホテル

〒930-1412 富山県中新川郡立山町戸崎寺堂
☎(076)442-2222 FAX(076)442-2242

(編集・発行) 立山黒部貫光株式会社

〒930-8558 富山県富山市桜町1-1-36
☎(076)441-3331(代表) FAX(076)432-9056